

# とつと通信

2021年7月17日発行

220号

「とつと通信」は  
略してとつと。  
いつも読んでいただき  
ありがとうございます。

こんにちは！平川です。先日、沖縄県石垣市へ行ってきたのですが、出張前日のお昼過ぎ、予約していた直行便を何気なく確認したら、なんと欠航になっていたではありませんか！あわてて、福岡→那覇→石垣の便を取り直しました。取れたから本当に良かったものの、



絶対にキャンセル出来ない出張でしたので、あたふたしました。妻は笑ってました。このコロナ禍、なにが起るか分かりませんね。これからは、迷惑メールも確認するようにします。さて今回は「あん頃のぼくらはアホや」シリーズもブラッシュアップしました。4回まであります。

では今月もはりきっていきましょ！

**あん頃のぼくらはアホや**だ！  
私は、こう見えても、水泳が得意である。中学の三年間、水泳部だったから。今思い出すと、アホらしきで笑えることが沢山あった。中学へ入学すると、和気あいあいとしたクラブ活動にあこがれ、すぐに水泳

部へ入部した。まず見学をする。部室は体育館の地下のそうじ道具や長テンプルが置いてある。物置の片隅だった。薄暗い上にホコリっぽく、暴走族のチーム名が何か分からないような落書きがあり、殺伐とした雰囲気。一般の生徒は体育館に地下があることすら知らない。すくさま「あ、ヤバイところに来てしまった」と気づいたが、あとの祭り。先輩との上下関係はとて厳しく、返事は「はい」ではなく常に「オス」。当時、流行っていたギャク漫画どおくまん作の「嗚呼!!花の応援団」の影響だった。水泳部なのに、ノリはまるで応援団。きびきびとした動きや言葉使いなど、徹底的にしごかれた。顧問の先生が休みの日には、決まって水中騎馬戦をした。二人一組で肩車をして倒し合うのだが、もちろん上ののは、体格のいい先輩方。上の人が前に倒れると本当に最悪で、降りてくれない限り、頭が

股から抜けず息が出来ない。私は何度も溺れかけ、マジで死ぬかと思った。またこんな事もあった。水泳部は給食後、昼休みの時間にも練習をした。



熱心というより目立ちたいから。ちょうどプールが非常階段から見下せる位置にあり、練習を見学する生徒が沢山いた。女子が多しと、先輩は、がぜん張りきる。ウケを狙ってサービス精神が旺盛になられる。そして何を思ったのか、よし、お前ら。水着を脱いで泳げと。「は？今何とおっしゃいました？」とは聞けず、先輩の命令にノリはしない。心配するな。すぐに慣れるから」なんと無責任なところ。これがのちのち名言となる。脱ぐと女子がキャーキャー騒ぐので、やっていける自分たちも次第に面白くなってきた。本当に慣れてしまふ。あまりにもウケるので、背泳ぎをするやつも出てきた。非常階段は、んでごった返した。

やがて私は中学2年生になる。今から43年前の事だが、当時福岡市にお住まいだった方は、覚えていらっしゃるだろうか。福岡市は昭和53年から54年にかけて雨が降らず、記録的な水不足が起こった。飲み水の確保すら難しく、どの中学校も水泳の授業は中止となった。我が校も水の入れ替えが出来ず、見る見るうちに、コケや藻が生え、まるで青汁のようになってた。「水はヌルヌルするし、臭うし。ボウフフはいるし。こんなところで泳いだら病気になる」と皆がそう思った。ガ口に出せない。それにうちの先輩はそんなことで休むようなヤワじゃない。水中10センチ先すら見えない中、黙々と中体連に向けて泳いだ。ところが残念な事に、その年の中体連は、水不足のため、全面中止となった。大会の記録は残らなかったが、代わりに私のお尻には、カビの一種の皮膚病、俗にいう「いんきんだむし」が残った。



発行／有限会社アサム  
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36  
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002  
・専門学校&スクールサーチ: <http://www.asamnet.jp/>  
・ブログ: <https://itorinri.com/>